

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長 殿

郵便番号 〒150-6019  
 住 所 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号  
 氏 名 日油株式会社代表取締役社長 大池弘一 印  
 (代理人) 川崎事業所長 池上二郎  
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日油株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区千鳥町3番3号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	化学工業製品、食用加工油脂製品の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	15,424	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	環境安全管理室
		所在地	神奈川県川崎市川崎区千鳥町3番3号
		電話番号	044-288-2372
		FAX番号	044-288-7954
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

## (第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおりです。
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおりです。
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおりです。
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	事業活動のプロセスにおける省エネルギー化の検討及び川崎スチームネット株式会社から供給される省エネルギー性に優れた蒸気の有効活用を中心に、指針様式第1号に示します対応を実施することにより、温室効果ガスの排出量の抑制を図っていきます。 詳細は、指針様式第1号（第4、5面）のとおりです。
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	無し
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	廃棄物減量化の推進及びエコ運搬制度の推進等により、その他地球温暖化対策へ貢献していきます。 詳細は、指針様式第1号（第6面）のとおりです。
備 考	日油株式会社の地球温暖化対策の取組みにつきましては、ホームページにて公表しています。  <a href="http://www.nof.co.jp/environment/index.html">http://www.nof.co.jp/environment/index.html</a>

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

## 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

日油株式会社川崎事業所は、以下に示します全社環境方針のもと、継続的な省エネルギーへの取り組みを基本方針としてレスポンシブル・ケア（RC）活動を推進し、具体的な目標を定めた地球温暖化対策を展開してまいります。

## 【環境方針】

日油は、顧客・地域住民・従業員に対する安全と健康の確保のため、また、環境の保全ならびに生態系および資源の保護のために、レスポンシブル・ケア（責任ある配慮）を持って全ての事業活動を行なうことを環境安全、製品安全、設備安全、物流安全および労働安全の5つの安全に関わる経営方針とする。

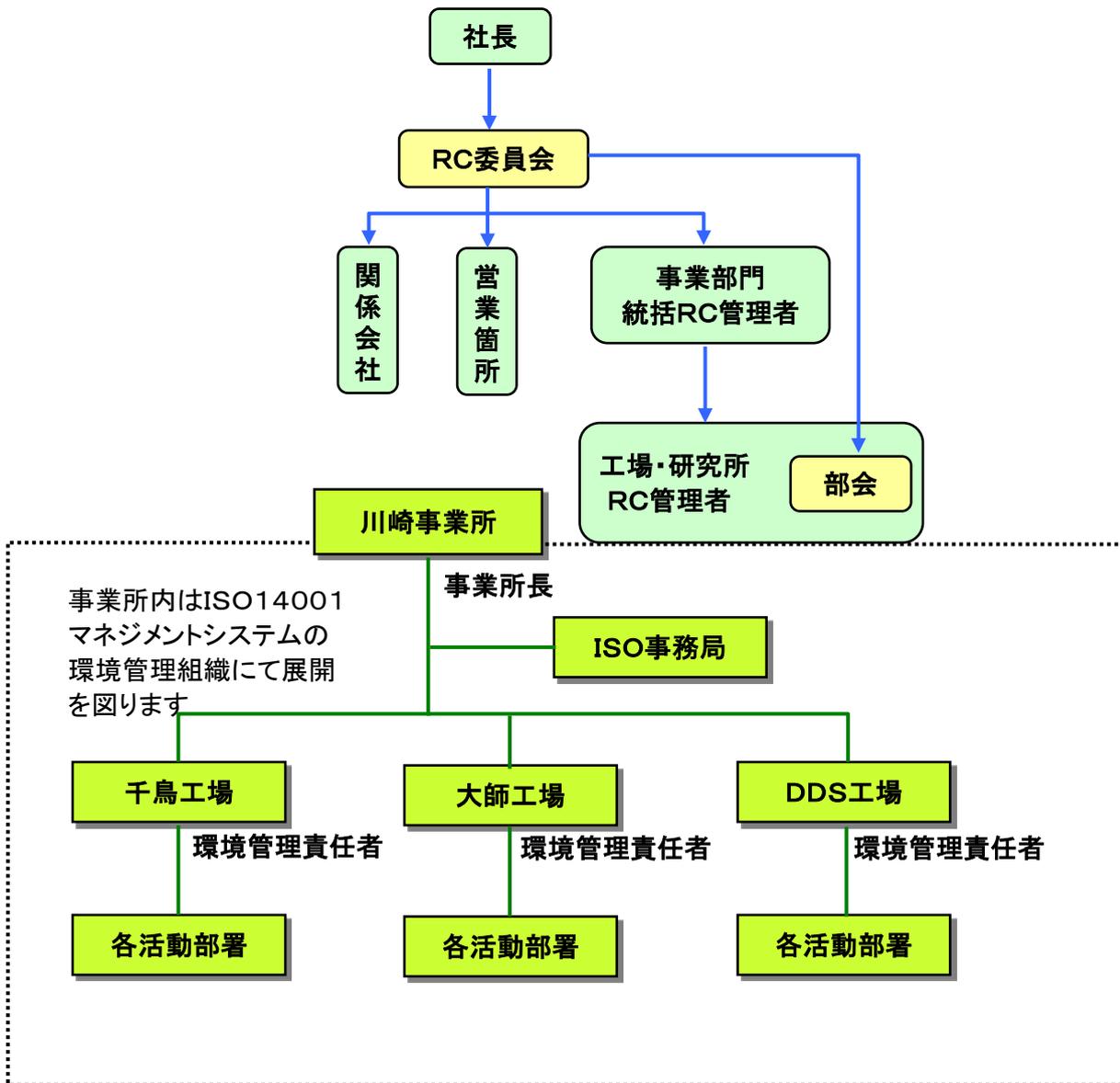
日油および関係会社の全ての役員ならびに従業員は、

- (1) 社会環境や自然環境に対する十分な安全配慮を持ち、
- (2) 適切な自主管理と緊密な業務連携のもとに、
- (3) 信頼性の高い安全性評価と関連法規の遵守により、
- (4) 製品の開発から製造・流通・使用を経て、最終の廃棄に至るまでの全てのプロセスにおける環境・安全および健康に及ぼす影響を最小化するよう努めなければならない。

## 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

別紙を参照してください。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



## 3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

## (1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

## ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成21年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 28,358 (調) 26,536 t-CO <sub>2</sub>	目標排出量	(実) 28,256 t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) 0.4 %	削減量	(実) 102 t-CO <sub>2</sub>

## イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	生産数量	単 位	t-CO <sub>2</sub> /t
基準年度の値	0.2459	目標年度の値	0.2350
削減率	4.4 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

## ウ 目標設定に関する考え方

<p>温室効果ガス排出量原単位の改善を図るため、生産数量を原単位の活動量とする排出量原単位の値を年平均にて1%以上改善することを前提に目標を設定しました。</p> <p>2010年2月、川崎スチームネット株式会社より、省エネルギー性に優れCO<sub>2</sub>排出係数の低い蒸気の購入を開始し、それらを有効活用することで温室効果ガス排出量の削減を図ります。</p> <p>さらに、事業活動における各プロセスにて、省エネルギー化等の取り組みを行い、温室効果ガス排出量の更なる削減を図ります。</p> <p>また事業活動地球温暖化対策指針別表のうち、2009年度までに十分な対応がとれていない基本対策につきましても、優先順位をつけて実施していきます。</p>
--

## (2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

--

## 5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

## (1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>温室効果ガスの排出量削減のための具体的措置について、以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の強化 マネジメントシステムの継続的な改善により推進体制の強化を図ります。</li> <li>○加熱設備における熱媒体の管理強化 加熱設備における運転条件を見直し、使用する蒸気の最適化を図ります。</li> <li>○熱利用設備における断熱の保安全管理強化 蒸気配管における保守、点検を強化、推進します。</li> <li>○スチームトラップの保安全管理強化 スチームトラップの定期的な保守、点検を強化、推進します。</li> <li>○クリーンルームにおける空気調和の管理 作業内容、作業時間等の再解析を行い、運転条件の最適化を図ります。</li> <li>○換気設備における運転管理の再検討 機械室、電気室の換気設備における運転状況を見直し、季節に応じた換気の停止を推進します。</li> <li>○照明設備における節電型ランプへの交換 ランプの交換時期に合わせた、節電型ランプへの変更を推進します。</li> <li>○川崎スチームネット株式会社からの省エネルギー性に優れた蒸気の活用 川崎スチームネット株式会社から省エネルギー性に優れたCO<sub>2</sub>排出係数の低い蒸気を購入し、効果的に活用します。</li> <li>○事業活動のプロセスにおける省エネルギー化の取り組み 各プロセスにおいて効果的な省エネルギー対策を検討、実施していきます。</li> </ul>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

再生可能エネルギー源等の利用に関して、検討を行っていきます。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

温室効果ガスの排出量削減のための取り組みとして、以下の対策を基準年度までに実施しています。

- 川崎スチームネット株式会社から、省エネルギー性に優れCO<sub>2</sub>排出係数の低い蒸気の購入を、2010年2月より開始しました。
- 従業員の通勤における公共交通機関の利用を推進しています。
- 事業所内の一部の建物において屋上緑化(666m<sup>2</sup>)を実施しています。

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

無し

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項として、以下の取り組みを実施しています。

- 廃棄物の減量化を推進しています。
- エコ運搬制度を推進しています。
- モーダルシフトを推進しています。

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	28,358	t-CO <sub>2</sub>
(調)	26,536	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k<sub>l</sub> 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
日油株式会社 川崎事業所	川崎市川崎区千鳥町 3 番 3 号	1632	脂肪族系中間物製造業	28,358 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 以上 1,500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k <sub>l</sub> 未満	
300~400k <sub>l</sub> 未満	
200~300k <sub>l</sub> 未満	
100~200k <sub>l</sub> 未満	
100k <sub>l</sub> 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--